

上宮寺通信

第七十三号

難行と易行

今月は「お彼岸」があります。

「暑さ寒さも彼岸まで」との言葉があるように記録づくめの猛暑も落ち着いてほしいものです。

「お彼岸」は彼(か)の岸、つまり向こう側の岸という意味で、仏様の国(浄土)を指す言葉です。ちょうど太陽が真西に沈むこの時期に、西方にあるといわれる浄土を想う行事が「お彼岸」になったといわれます。

逆に私たちの居る世界は此岸(しがん)といえます。此岸(迷いの世界)から彼岸(覚りの世界)への「到彼岸」が、数多くの宗派があるといえども仏教の

究極的な目標といってもいいと思います。

七高僧(※)のお一人であるインドの龍樹菩薩は「到彼岸」には難行の道と易行の道があるとお示しくださいました。

多くの方は仏教という難行のイメージだと思います。覚りを得るために戒律を守り厳しい修行を行う。覚りという究極の目標に対して階段を上るように近づいていく。しかし、それではごく一部の人のためだけの仏教であり、日々の生活に追われている人々には仏教は縁遠いものとなってしまいます。

仏様のお心を尋ねてみれば、仏教がごく一部の人だけのものであってはならない。すべての人が仏縁を結び、仏教に出あえ

た喜びを得なくてはいけない。

そのことから親鸞聖人をはじめ七高僧といわれる方々は経典を讀みこみ、自らも実践しながら

「念仏を称えれば仏様のお力によつて覚りと同じ境地に立たせていただける」という称名念仏の道を頭かにされました。これが易行の道といわれるものです。

親鸞聖人も『正信偈』の中で龍樹菩薩のお仕事として「顕示難行陸路苦 信樂易行水道楽(陸路を歩むがごとく難行はとても苦しく、水路を船で渡るがごとく易行は楽しいことであると私たちに示してくださいました)」と著しています。

しかし易行を易行としないのが私たちの根性です。「念仏を何

回称えたか」と回数を誇ったり、「どんな心持ちで念仏を称えたか」と念仏の質を問題にしたりと「私のはからい(自我)」が出てきてしまうのです。

易行の念仏を難行としてしまう「私のはからい」を見つめさせていただく。それがこの「お彼岸」の行事に込められた願いでもあるのです。



※親鸞聖人が浄土教の祖師と尊敬されたインド(龍樹、天親)・中国(曇鸞、道綽、善導)・日本(源信、源空)の七人の高僧。

◆行事案内

秋季彼岸会・永代経法要

9月8日(日) 午前10時

法要 引き続き 法話

法話 田中智教 師

(名古屋別院主事)

※午前みの法要です。持ち帰り用の軽食をご用意いたします。

本山報恩講団体参拝(日帰り)
11月21日(木)

東本願寺報恩講(連夜)参拝、
醍醐寺(三宝院)見学 他

参加費 一五、〇〇〇円

定員 30名(定員になり次第締切)

◆話題あれこれ

○記録的な猛暑の中、お盆(盂蘭盆会)法要には多くの方にお参りをいただき、ありがとうございました。

○9月8日には秋の彼岸会・永代経法要をおつとめいたします。猛暑も少しはおさまっていることを願っています。が、どうかお気をつけてお越しください。法話は昨年引き続き、住職の別院勤務時代の同僚(後輩)にお話しいただきます。皆様のご参詣をお待ちしています。



○お彼岸のお墓参りに行かれる方も多いと思います。9月21日(土)から23日(月・祝)までの間、八事墓地では交通規制がありますのでご注意ください。

○夏の疲れが出やすい時期です。体調を崩さぬよう、どうぞお身体を大切にお過ごしください。

○ホームページ、公式LINEもよろしく願います。



ホームページ



公式LINE

【お志ありがとうございました】

渡邊延幸様

【雑感】

熱戦が繰り広げられたパリオリンピック。日本は海外大会では過去最多の43個のメダルを獲得しました。競技時間が深夜なので、ほとんどの競技をリアルタイムで観ることはできなかったのですが、朝のテレビ番組でメダル獲得のニュースを見るのが楽しみでした。そして高校野球。愛知代表の中京大中京は2回戦敗退と残念でしたが、延長タイブレークまでもつれ込んだ決勝戦は見応えがありました。スポーツの感動をたくさんもらった今年の夏でした。地元球団ももう少しがんばってほしいなあ。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金一丁目十九番十五号

☎052-871-0547